

## 祖母の笑顔

寄宮中学校 3年 宮里 芽依

私の祖母は視覚障害を持っている。目が見えないので祖母が一人で行動できる範囲は私達と比べて大幅に狭まってしまう。家での娯楽や外出が限られてしまう祖母にとって、祖父は大きな存在だったと思う。しかし祖母にとって一番大切だった存在の祖父は三年前に亡くなった。いつも明るく元気だった祖母はそれをきっかけに暗く、静かになってしまった。また、仕事や家事をしつつ、祖母のことを手伝い、支えている母もとても大変そうだった。

そんなとき、母が同行援護という視覚障害者を対象とするサービスを見つけ、祖母はそれを利用するようになる。同行援護は一人で移動することが困難な視覚障害者が外出する際に職員の方が同行し、移動に必要な情報の提供や移動の援護等を行ってくれるものだ。利用者が決めた時間に利用できるため祖母の好きなタイミングで外出でき、母などの身内の負担も軽くなった。最近ではロービジョンケア施設という。視覚障害者が集まって様々な作業や活動をする施設も利用しており、以前より活発的になり笑顔が増えたと感じる。私は祖母や母を救ってくれたこれらのサービスに興味を持ち、調べてみた。するといくつかの条件に当てはまる人はこれらのサービスを無料で利用できることがわかった。なぜこのようなサービスが無料で利用できるのか母に聞いてみると、税金が関係しているとわかった。

税金は大人から子供まで様々な形で納めており、商品を買った時やサービスを受けた時に納める消費税や個人の所得に対してかかる所得税など色々なものがある。それらの税金は道路などの整備や科学技術の発達のために使われている。数ある使い道の中で最も多くおよそ三十四%を占めるのは、私達の健康や生活を守るための社会保障費である。年金や介護・福祉などの公的サービス、祖母が利用している同行援護も社会保障費で成り立っている。しかし、なぜそれらに対しての税金の使用割合が多いのか私は疑問に思った。調べてみると、日本では「障害者総合支援法」という、地域社会における共生の実現に向けて障害福祉サービスの充実等障害者の日常生活や社会生活を総合的に支援するという目的で創設された法律が定められているとわかった。税金や法律のおかげで沢山の人が支えられているのだと実感し、私は感動した。もしも税金がなかったら、公共サービスの面では高齢者、障害者向けの施設や医療機関の整備などが不十分になってしまう。普段何気なく納めている税金は、沢山の人を支えている。税金を通して沢山のひとと繋がることができる。そう思うと、納税はとても誇らしいことだと思った。

祖母の笑顔を取り戻してくれた税金への感謝の気持ちを忘れず、私も国民としての自覚を持ち、しっかりと税を納めていきたい。